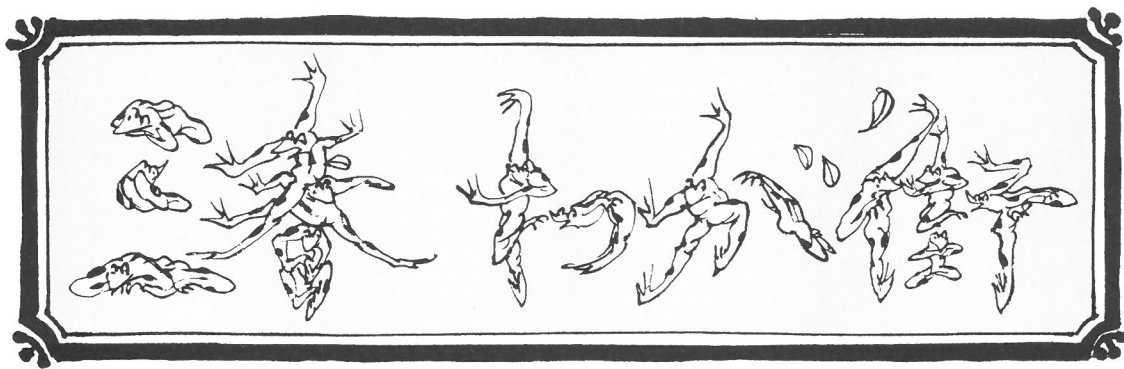




■コミュニティだより VOL.20

特集 三春の道、路、径、みち…

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会広報委員会



顔

三春大好き

思い出の場所^{やま}に生きて今

藤井 キクさん

現在、三春町高齢者住宅にお住まいの藤井キクさんを訪ねました。

入居してまだ五カ月というにもかかわらず訪問者が絶えることがなく、また各地からの視察者がお部屋へ見学に寄る度、ガイド役に

とお忙しい毎日を送っておいででした。

そのような藤井さんに入居することになったきっかけをお聞きしました。

答えは「たまたま息子と孫と一緒に福祉会館へ食事に来た時に入ることになった

だけ。」ということでした。

下の息子さんは心配のあまり反対したようですが、藤井さんの決心は変わりませんでした。現在は、時々訪ねてきて暮らしぶりをみて、安心してゐることです。

すっかり今の暮らしになじんでいる藤井さんに、元の家へ戻りたいと考えてみたことはなかったかどうか尋ねてみました。

「一度決めたことは崩さない、ということが私の信念です。それにせつかく町で一人暮らしでも安心して住めるように建ててくれた所に住んでいるのに戻るなど考えたことなど一度もありません。」ということでした。

その上、高齢者住宅は、以前郡役所（田村郡）のあった所であり藤井さんの三春で一番好きな場所なのでそうです。

理由をお聞きしたところ、そこは小さい頃の遊び場であり、若い頃の勤務先の関係で出入りしていた所という思い出のたくさんある場所だからということでした。

そこで、信念をしっかりと持ちの藤井さんに三春町について聞いてみました。

「三春町は大好きです。ただ現在の人は分かりませんが、三春町の人の奥ゆかしいというか積極的でないのがどうにもはがゆくてなりません。」ということでした。

このようにおっしゃる藤井さんは、町会議員を辞めてから八年間、今年まで福島県中央生協の理事長をしていたということでした。

次に女性の元町会議員藤井さんに三春の議会に女性の意見を反映させる為にどのような方法があるか尋ねてみました。



「私は女性の議員を町の議会に参画させることを考えるより男性の議員に女性の声を理解してもらい、男性の議員に発言してもらおう方がいいと思う。下手に男だ女だと意識しないほうが、いいのではないか。」とのことでした。

次に、取材の最初から最後まで話の中心であったご主人についてお聞きしました。ご主人の思い出話の中に「たった一行だけでも読みたいと思う本がある。」という印象的な言葉がありました。本ばかり購入しているご主人に愚痴をこぼした時にいわれた言葉だそうです。その思い出の本は、物が小さいので入館するときに図書館に寄贈したり、古本屋に処分されたそうです。

ですが、その時に図書館の方には欲しかった本だと感謝され、また古本屋には「無駄な本などひとつもないね。」といわれたことをお話しくださいました。

最後に、これからの三春町に望むことについてお聞きしました。

「私は三春町が大好きです。本当は現在のように三春の民家や通りを崩したくなかった。旧三春のままで残したかったと思っています。時代の流れもあるのは理解できますが、もう少し別の方法があったように思うのです。だから、これから先は、三春のよさを残しながら未来というものを築いていくて欲しいと思います。」という話を話して下さいました。

阿武隈山系の西の裾野に開けた谷あいの町が、現在私たちの住んでいる三春町です。

その歴史は、室町時代から城下町として栄え、今に至っています。

三春町の先人の足跡と伝統を訪ねるために、三春まちづくり協会の街並部会では、十二年前に町に散策路を作る提案をし現在の道ができあがりました。

中世の歴史の時の流れにたらずみ、田村氏の築いた舞鶴城を眺めながら歩く二の丸散策路、そして東館散策路。

秋田氏の菩提寺の高乾院と龍穩院、甘酒地蔵の法蔵寺のある龍穩・愛宕散策路。

自由民権運動の総帥、河野広中の遺髪・髭を納めた塚、『はらきり梅』のある紫雲寺散策路。

三春町の民俗資料を展示した三春町歴史民俗資料館のある静かな小径の不動山散策路、桜谷散策路。

どの散策路を歩いても三春町のやさしい時の流れに思いを馳せることができます。

ただ残念なことは、あまりよく知られていないため、なかなか利用する人が少ないことです。

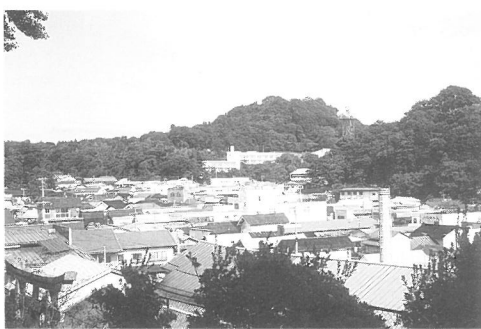
ゆとりを大切にす今、これを機会に散策路マップを片手に歩いてみてはいかがでしょうか。

集

散策路

三春の道、路、径、みち...

愛宕神社からお城山を望む。神社と真新しいあずま屋の脇をのぼりつめると眼下に日本化学工場、八島台の家並み、さらに安達太良を眺めることができる。法蔵寺、龍穩院などの裏山を歩く散策路。



紫雲寺、王子神社の裏山を荒町の寺院を見つて行くと三春中体育館の前や、北野神社に出る。

お城山の遊園地をぐるっとひと回りする短い散策路。このあたりには「南の小径」から本丸へのコース、堅堀から「町民の森」へのコースと1年中変化にとんだ城山公園がある。



春は色とりどりの山ツツジが咲き競う。河野広中の像やお城山、紫雲寺などを見回すことのできる静かな散策路。

歴史民俗資料館入口下の案内版から左に入る。春は新緑、秋の紅葉がなかなかいい。見どころの竹林のトンネルを抜けるとそこは福聚寺の裏山で、八幡町方面が眼下に広がる。



田村大元神社の仁王像のある八脚門をくぐり抜け、神楽殿脇を通って坂道を上ると、およそ樹齢150年もの多くの木々が迎えてくれる。中段から振り返る田村大元神社各社の格式ある配置や、東館跡から遠望する288号線バイパスの師範場橋など、普段見られない景色が楽しめる。

散策路利用者の声

龍穩・愛宕散策路

愛宕神社から龍穩院までの散策路をときどき利用するが、最近非常に良く手入れが行き届いているので驚いている。ただ、ヤブ蚊が多いのと、砂利が敷いてあつてすべりやすいのでお年寄りにはなかなか利用しにくいのではないだろうか。

傾斜が強いところは階段状にするなどの工夫も必要だと思う。

工事の設計が冬だったせいか、緑が多くなるとベンチから景色が見えないところもかなりあるようだ。設計をするときに地元の町民の声を聞いて取り入れることも大切だと思う。

散策路を観光客にも利用してもらおうとするならば、途中で歴史を記した立て札や看板など見て楽しめるものを作ってはどうか。

(中町 栗原一二さん)

東館散策路

私は、五・六年前から体力維持増進のため、毎朝東館散策路を散歩している。特に体の悪い所はなく、いたって健康である。

歩く距離は約五キロメートル、時間にして約一時間かかる。

たまに犬の散歩などで二・三人の人と出会うこともあるが、一人静かに歩くのにもってこいの散歩コースである。

おかげさまで、足取りも軽く健脚を誇っている。

(山中 村上正彦さん)

三春には散策路の他に二八号線をはじめとし、たくさんの道路があります。それらは歩行者も車も日常利用する生活道路、いわゆるライフラインです。

今、大町を中心に道路拡張が進められています。しかし歴史の古い城下町ではどこでも共通のことですが、



昭和30年代の役場付近

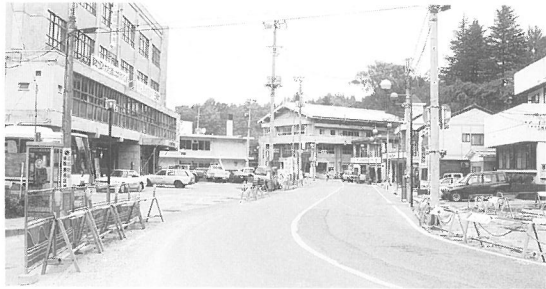
道路の幅を広げようとしても簡単にはいきません。昭和三〇年代の写真と現在の写真を比べてみても道路の幅がほとんど変わっていないことが分かります。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

三春町の道路について、何人かの方からご意見をいただきました。

「歩道が狭く歩きにくい。またゴミが多いと感じる。ガードレールや側溝のフタが壊れたままの状態や、フタがふさがってないところもあり、歩行者側になると危険度が大変高いと思う。坂道が多いので自転車を利用した場合はスリルがあってもおもしろいけれど、昇りは辛いです！」

(男子中学生)



現在の役場付近（平成8年10月撮影）

「高校生活を含め今まで十年間、中妻より三春までお花のお稽古に通っている三春の道です。〇Lになり、車で三春町に通っておりませんが、車道、歩道が狭く、商店の前に車がいつも駐車しており交通渋滞を生じています。夜間は車も人も少なくスムーズに走行できるのは結構ですが、なんとなく寂しい感もいたします。」

(中妻 宗像敏恵さん)

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「運転していると、危険なところが多いところがあるが、中でも雁木田のY字路はどちらが優先なのかが分かりにくいので、一時停止せずにそのまま交差点に入ってくる車が多くて非常に危ない。早急に改善してほしい。」

また通学時間帯の歩行者道路の指定も実態にそぐわないところもあり、見直してもいいのではないかと思う。」

(タクシー運転手

渡辺幹男さん)

人にやさしい
まちづくりを
めざして

福島県では、平成八年四月一日から「人にやさしいまちづくり条例」を施行し、お年寄りや障害を持った方など、誰もが安全かつ快適に行動できる生活環境の整備を進めています。

例えば、人の集まる建物を新しく建築する場合などは入口や通路の幅を十分とり、必要な場所に点字ブロックを敷設したり、車椅子利用者のための駐車場を入口に一番近い場所に設けることなどが制定されています。

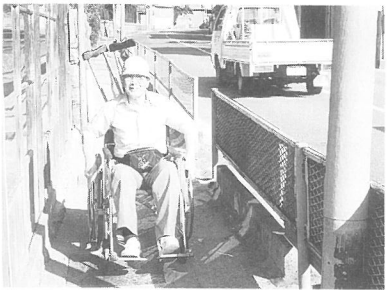
車椅子利用者のための駐車場は、町役場や三春駅の他、ヨークベニマル三春店などにも見られます。店長の柴孝二さんは「店舗改装に伴い、車椅子利用者のための駐車場を用意し、売り場の通路やレジのスペースもだいぶ広くなりました。車椅子をご利用のお客様にも気軽に買い物していただきたいと思っています。」と話しておられました。

こうした条例は、これからのまちづくりの方向を示唆するものといえるでしょう。



お願い
・体の不自由な方のためのスペースです。
・一般の方の駐車はご遠慮下さい。

弱者の身になって 道路の整備を



南町の歩道を歩く五十川さん

いつも車椅子を利用して五十川精さんに、三春町の道路の感想をお聞きしました。

「急速な高齢化に伴い交通事故も増加するばかりですが、その大きな原因のひとつは歩道の整備の遅れではないかと思っています。車道と歩道を比べると、どうしても車優先となり、歩道の整備はほとんどなされないのが現状なので、歩道の状況の定期的な点検も必要だと思います。また、車道の幅に伴い、歩道の幅がますます狭くなっている、側溝のフタ、自転車、自販機、商品陳列、電柱のはみだしなどが障害物となって、車椅子では歩道を通ることが困難で車道を通らざるを得ないのです。」

若い方々もいつこのような境遇にならないとも限りません。弱者の身になって真剣に検討していただきたいと思っています。」

編集委員も車椅子で歩い

歩

道

と

車

道

てみましたが、側溝の蓋に車はさまりそうになったり、歩道がでこぼこだったり、砂利や石ころがじやまをしたりと、とても車椅子でどこかへ出かけるというような状態ではないようです。

これは三春町に限ったことでもなく、どの自治体でも多かれ少なかれ、同じような状況ではないかと思われ、せめてこれから整備される部分については車椅子はもちろん子供からお年寄りまで安心して利用できる歩道を作ってほしいものです。

これからの三春町

今、役場付近で大がかりな道路工事が行われていますが、この工事が完成すると南町から大町四ツ角まで両側に3.5メートル幅の歩道ができ上がる予定です。また、電線を地中に埋設したり、下水道の準備も同時に進行しており、お祭り広場としても機能する道路が出来上がります。下の図のようなイメージで整備が進められています。三春町の街路デザインの基本テーマは次の五つです。

- ・歩くことが楽しくなるまち
- ・ドラマのあるまち
- ・歴史を感じるまち
- ・四季を感じる自然にやさしいまち
- ・行き交う人のところが和

み、住む人のところが生き生きするまち
このようにわが三春町でも「人にやさしいまちづくり条例」の考え方が少しずつ形になってきていることは嬉しいことではないでしょうか。

おわりに

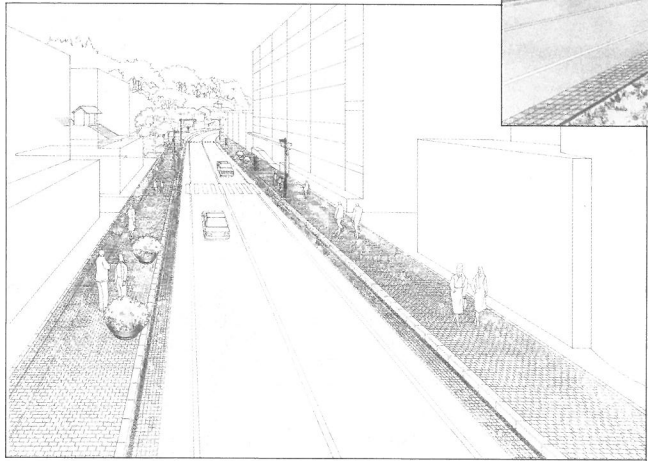
三春町には、今まで述べてきた他にもたくさん道があります。そして道について感じる、思うこと、人それぞれあることと思います。

小さいころ遊んだ路地裏、たんぼの畦道、秘密の近道、お花見に歩いた山道...など数えきれないほどあることでしょう。
けれどもこれからの道に對する思いは、同じではないかと思うのです。
住民にやさしい道路、広くいえ生きとし生ける者すべてにやさしい道です。
現在、狭い道路を車と人間が共有しているために起こる問題を少しでも無くしていければと思います。いかに三春町らしい道路にしてゆくかは、現在住んでいる私たちの努力ではないでしょうか。



街路樹のある道路（福祉会館付近）のイメージ

▼お祭りの行われる道路（図書館付近）のイメージ



ふるさと再発見

三春城と東館

ひがしだて



石垣構えによる近世城郭へと改修されました。松下氏後期は本丸南西麓に御殿が設けられ、三春城は山城から平山城に変容したといわれます。

東館には、愛姫のおばあさまで、伊達政宗のおばあさまでもあった田村隆顕夫人の住まいで、三春に一ヶ月ほど滞在した政宗は、度々東館を尋ねて、食事をとるにしています。先年NHKの大河ドラマ独眼流伊達政宗が放映され、愛姫のふるさと三春が全国に知られるようになりました。三春城で生まれ育った愛姫は、天

三春町の中央にそびえる三春城跡は、四季おりおりの自然の美しさを見せながら三春の移り変わりを眺めているようです。今回はふるさと三春のシンボル三春城について紐解いてみましょう。

三春城は、戦国時代の三春の領主田村氏が本城とした山城です。その山城としての構えは寛永五（一六二八）年以後の松下氏時代にも維持されながら、かつての本丸と二の丸を合わせて本丸とし、本丸西下に二の丸が築かれ、また東屋形が三の丸とされ、総体として



正七（一五七九）年、伊達政宗に嫁ぐ十二歳までをここで過ごしました。才色兼備と賛えられ愛姫は政宗との間に五郎八姫、仙台二代藩主忠宗ら四男二女をもうけ政宗没後は、雲居禅師に帰依して念仏三昧に過ごし、八十六歳の生涯を閉じました。ふるさと三春から嫁して以来一度も三春にお里帰りはなかったと聞いています。しかし、政宗没後、田村家再興に尽くしており、愛姫の心にはふるさと三春が住んでいたのだと思われます。愛姫生誕の地を後世に伝えていくべく婦人団体の善意によって愛姫塚が、町を見おろす場所に建立され、三春町を暖かく見守っています。草茂る東館を散策すると愛姫やおばあさまが顔を出すような錯覚を起してしまいます。



三春のまちの公共施設を訪れると、玄関で美しい生け花に迎えられる、心がなごむことがよくあります。

たとえば三春町公民館、図書館、三春警察署、福祉会館など、いずれも見事なものです。そのほとんどがボランティアの方々によるものです。

三春警察署では、訪れる方々の警察に対する堅いイメージがやわらぐというところで大変喜ばれています。

平成六年に磐東プラザがオープンしたときから三春駅にも生け花が飾られるようになりました。ところが、心ない人のいたずらから、二、三日も過ぎないうちに花の向きは変えられ、なくなる花も出ました。時には剣山がなくなったり、花器まで壊されることもありました。駅は、その地を訪れる人が最初にその町と出会う場所です。

やさしい花、やさしい心を踏みにじらないようにしたいものです。



ひとくちコラム

「ふるさと川のよさを考えよう」のテーマで九月に大林ホールで発表講演会が催された。三春中学校クラブの「桜川・八島川の水質調査」発表では、中町八幡町を流れるときの桜川の著しい水質汚濁が明らか

協会長よりひとこと

三春まちづくり協会
協会長 原 秋男

当協会は、三春に住んでいる私達一人ひとりが、豊かな心と優しさをもって、家庭、隣近所、職場等で、仲良く助け合い、良い人間関係を築き、住み良いまちづくりをしようという目的で設立されてから十年以上の歳月が過ぎました。

構成は、三春地区の区長や宇推薦委員、商工会、婦人団体、小中学校PTA、消防団、交通安全協会、民生児童委員会等の役員より組織されており、生活、環境、街並、老人福祉、土地利用の五部会と、広報委員会があり、この部会活動と広報事業が会の運営の中心となっています。

そのほか、クリーンアップ作戦や、各字毎に行われる、まちづくり懇談会等も大きな仕事の一つです。これから多様化される

かにされた。その主な原因は台所からの生活雑排水で、一例を挙げれば、フライパン一杯の油をそのまま流すと魚がすめる状態の水にするためには、ナント浴槽三〇〇杯の水が必要だということでした。

汚水を出さない知恵とモラルが問われているのです。町民にとって大切な問題なのに、ガランとした客席は寂しい限りでした。

社会の中、住民参加のまちづくりを、皆様のご協力を頂きながら進めてまいりたいと思います。

この「三春わが街」は、協会と皆様を結ぶ情報のパイプラインとして、まちづくりのコミュニティの広場としてご愛読頂ければ幸いです。

私達が広報委員です

委員長 中村 利孝(中町)
副委員長 永井 久(荒町)
委員 佐藤 弘(北町)
委員 角 悟朗(丈六)
委員 佐藤 忠男(亀井)
委員 佐久間信次(山中)
委員 降矢由美子(亀井)
委員 永山 栄子(大町)

町の話、
お待ちしています!!

表紙写真撮影は飛田昭司さん(山崎)のご協力得ました。

編集後記

○特集を何にするかを討論する中で、生活と密着する「道」と決まった。

その中で「町づくり協会」と行政はどんな関係にあるのか、またどのような働きかけが出来るのか、が問題になった。現状をより多くの人に知ってもらい、批判は批判とし、出来る限り良い点も拾い出しアピールすることを加味し基本方針とした。

様々な価値観による反応も予想できるが、町民の声を直接聞ける機会が多くなれば幸いである。

(佐久間)

○病原性大腸菌「O157」の猛威に振り回された一年でした。

広報委員のスタッフが真摯の思いで編集に取り組んだ第二〇号をお届けします。言葉にこだわり、辞書に振り回され思うようにペンが進まず広報紙づくりの難しさを体験しました。皆様のご意見をお待ちいたします。

(永山)

コミュニティだより
「三春わが街」第二十号
発行日 平成八年十二月一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報委員会 会
三春町字大町一七八
(六二) 三九八八